

東日本大震災記録集

分野名：医学系研究科創生応用センター細胞治療分野

教授：阿部俊明

場所：医学部 2 号館 4 階

連絡先：nagai@med.tohoku.ac.jp

被害状況：震災直後の研究室は一見オリエンテーションがつきにくくなるような混乱があり、個々の機器の警報音だけがけたたましく鳴り響く異様な雰囲気であった。いろいろな方のサポートを受けながら、研究室全員で震災前以上の研究体制を築きつつある。

- ・ 構成員の被害状況

教員 2 名、スタッフ 2 名、学生 2 名が在籍していたが、全員けがもなく無事であった。

- ・ 研究室、建物の被害状況

水道、ガス、電気が停止し、壁の一部にヒビが多数入ったが、屋根や壁の崩落はなかった。電気は 1 週間以内に復旧したが、水道は復旧まで 3 か月以上かかった。

- ・ 設備備品等、生体試料（摘出組織など）の被害状況

激しい揺れによって本棚が倒壊し、実験器具や試薬等が床に散乱した。故障した備品はゲルドック（電気泳動ゲル撮影装置）、低酸素インキュベーターであった。その他のほとんどの備品は落下もなく、無事であった。一部重要な冷凍試薬（抗体など）は停電後に非常用電源で動く冷凍庫に移動したため無事であったが、移動できなかったほとんどの冷凍試薬は解凍し、使用不可となった。また動物の血清、眼内液などはすべて使用不可になった。

- ・ 社会貢献（支援活動、ボランティア活動など）

一部のスタッフは津波で被災した地域へ足を運び、眼科医療のボランティアを行った。

- ・ 研究への影響

停電が復旧するまでの約 1 週間は研究が停止したが、電気が復旧後は余震を警戒し安全を第一に考えながら、動物の世話や震災前から続けていた実験サンプリングなどの研究を行った。水道が一時的にでも復旧後は、ほぼ正常通りの研究体制に戻った。

- ・ 手記など

